

授業改善書

科目名	認知行動療法
担当者	羽鳥健司

授業の概要

心理療法の中で最もエビデンスに基づいた支援法の一つである認知行動療法の基本的な考え方や実施方法について講義を行った。前半は主に理論的な講義を行い、後半では教員が受講生の前で模擬的に行ったものを学生同士でロールプレイするというようにモデリング学習を取り入れた。

授業の問題点

最も評価点の低かった項目は「質問や発言をしなかった」であり、これは中央値の「3」を下回った2.96であった。教員からは積極的に発言を促すよう指名したりしていたが、学生の中には大勢の前で発言することに抵抗を感じる者が多かった。少数ながらも発言を促すと意見を積極的に述べる者もいたため、これらの者に発言を促すことが多くなってしまった。

学生の授業満足度

「予習・復習」以外の全ての項目は4点を超過しており、4点台後半の項目も複数存在した。「授業満足度」についても、4.36、4.32であり、高得点と言えるものであろう。来年度以降も基本的な授業の方向性は変えることなく進めて行きたいと考えている。

授業改善の課題と方策

この授業で最も改善が求められていることは、受講生全体に発言を促すことである。「興味関心」や「満足度」等がいずれも高得点であるにも関わらず、「発言」の得点のみが外れ値と言えるほど低かった。この結果は、「興味があり参加もしたいが参加できていない」受講生が多かったことを示しているものと考えられる。今後、大人数の中でも発言できるようにするためには、環境を整えるのみならず、受講生個人内の発言をためらわせている要因(恥ずかしい、変に思われたらどうしよう)を自覚させ、乗り越えられるよう支援していくことなどが考えられる。

その他